

## 平成 21 年度第 1 回 第 2 期宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見部会

日 時：平成 21 年 4 月 13 日（月）18：05～20：10

会 場：宮前区役所 4 階第 2 会議室

参加者：高木部会長、永野委員長、河井委員、千葉委員、恒川委員、松井委員、渡辺委員

（以上区民会議委員 7 名）

岩佐、成沢、鈴木（以上宮前区役所企画課 3 名）

岩下（株式会社シー・エス・ケイ）

### 開会

- ・開会あいさつ（岩佐企画課長）
- ・公開の説明
- ・行政（事務局）人事異動紹介

（旧担当）

企画課長田邊・・・総合企画局に異動

企画調整担当主査中山・・・総務局に異動

（新担当）

岩佐・・・企画課長に就任

成沢・・・企画調整担当主査に昇格

鈴木・・・課内で新たに区民会議担当に就任

- ・自己紹介

**事務局岩佐** 前任は市民子ども局子ども本部で障害児の福祉関係の仕事を 1 年していました。その前は麻生区で企画調整担当をしていました。宮前区勤務は初めてなので、地域のことを勉強させていただきながら、皆様と一緒にやっていきたいと思います。よろしく願いいたします。

**事務局成沢** 昨年度に引き続きよろしく願いいたします。宮前区企画課 4 年目になりました。これまで何をやったの？と聞かれた時、私は「区民会議をやってきた」と胸を張って言えると思います。立場が少し変わりました調整役となり、直接の窓口などについては、今年度は若い鈴木が担当となります。私は、会議の資料説明などを行うことも多くなってくると思いますが、これまでどおり皆様と仲良くさせていただければと思います。

**事務局鈴木** 資産税課から昨年企画課に異動してまいりました。昨年の区民会議では、時々会議の写真などを撮らせていただいておりますが、今年は事務局として、直接的に関わることになりました。入庁 5 年目で、まだ行政の事も、宮前区の事もわからない事もあるかと思いますが、勉強しながらやってまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

**千葉委員** 宮前区のポータルサイト、宮前ぽーたろうで営業担当をしています千葉です。これまではお店や会社の広告とりがメインの仕事でしたが、今後は地域のイベントやサークル情報、その取材や紹介も強化していきたいと考えています。よろしく願いいたします。

**恒川委員** 公募委員の恒川です。また、宮前区のシニアアドバイザーも拝命し、活動しています。

**松井委員** 松井です。宮前区まちづくり協議会で理事長をしています。6 月で任期が終わります。宮前区の区づくりプランの推進ということで、地域で 10 年近く様々な活動をしてきています。地元では平瀬川流域まちづくり協議会の事務局長をしています。NPO 法人多摩川エコミュージアム

の副代表でもあります。よろしくお願いいたします。

**渡辺委員** 第1期区民会議では連合自治会向丘地区の代表として参加、2期目は区長推進で委員となっています。今は神木本町自治会の顧問をしています渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

**永野委員長** 永野です。第2期の委員長を務めています。第1期から委員でした。宮前区子ども安全安心協議会の会長として区民会議に参加しています。青少年指導委員会会長もしております。よろしくお願いいたします。

**高木部会長** 高木です。部会長をしています。飛森谷戸の自然を守る会という緑の活動団体で事務局をしています。地元初山自治会副会長でもあります。よろしくお願いいたします。

**河井委員** 河井です。自然・環境分野の団体の代表ということで区民会議に参加しています。グリーンフォーラム21の世話役を勤めています。また、宮前ガーデニングクラブでコミュニティガーデン活動をしています。よろしくお願いいたします。

**コンサルタント** 株式会社シー・エス・ケイ、地域総合研究所の岩下と申します。宮前区さんとはこの区民会議を通じて初めてお仕事をさせていただいております。今年は第2期の提案をまとめる年ということで、いろいろと皆さんのお手伝いをさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

・資料確認

## 議事

### (1) 今後のスケジュールと進め方について

※事務局から資料1に沿って説明があり、以下のことを確認した。

- ・11月に開催予定の第3回区民会議での、最終的な報告のオーソライズを目指す。
- ・その前の10月の第5回部会では、部会内での報告内容の確認、さらにその前の9月の第4回部会まで、実質4回で議論のまとめを行う。
- ・特に現時点で部会開催数の増加などは行わないが、今後議論の進み具合などにより必要が出てきた場合は検討する。

### (2) 具体的な課題解決策について

**永野委員長** 区民へのアンケートや情報募集に対してこれまで集まってきた素材が足りないということが少し気になっています。もう少し広く集めたい。

また、素材を、宝をおしあげていく作業を誰に働きかけ、どのような方法で進めるのかが肝心です。具体的な提案を事細かにつくるのか、大雑把な流れをつくるのか、アクションプランのような形になるのか、報告の仕方によっても、区民の受け止め方がかなり違ってくると思いますので、そこをどう整理するかも検討していきたいです。

**高木部会長** 区民会議フォーラムの分科会議論の結果の資料も欲しいところです。

**事務局** 区民会議中間報告書の19ページに掲載されています。

**コンサルタント** 資源の情報を集める話と、その活用法の話は別に考えた方が良いでしょう。資源の情報については、中間報告書の32~37ページにこれまでの集めた情報がリストアップされています。こちらについては、人材や活動、イベントの情報をもっと集めたいというご意見もありました。区民からの情報提供がまだ少ないということもあります。これをこれからどうするか。この話とは別に、宝をおしあげていく手法に関する提案について話し合う。マスコットやマップづくり、スタンプラリーやウォークラリーなどのアイデアがいくつかこれまでも出ていますが、具体的な進め方についてよ

り細かく話し合っていく必要があります。

**事務局** 資料3での「具体的な解決策」の部分がこれからの議論の中心となると思います。何が宮前区の地域の宝か、顔かということは区民会議が決められるものではないということは、昨年度からの共通理解です。資源の情報集めも並行で進めていくのですが、この場ではその資源の共有化の手段の検討に力をいれていくべきだと思います。どのような地域単位でどのような方法を進めていくかという議論に入っていく段階にきているのではないのでしょうか。

**高木部会長** 区民会議フォーラムでは、地域対抗のコンペや、区役所ロビーを使った地域の発表、情報紹介などの案も出ていました。共有化の手段の一つです。

**松井委員** 地域で競い合わせるのはおもしろいと思います。互いに良い刺激をうけることができます。まとまりやすい地域の単位を考えると中学校区の8つくらいが良いのではないかと。地域教育会議がもっとうまく機能すればと良いなと感じています。地域教育会議は、毎年課題をもって活動していますが、継続性が弱かったり、地域差があり、こうした活動に乗って来てくれれば、活性化するのではないかと思います。

**高木部会長** 中学校区の中で情報を共有できるしかけをまず考えないとならないと思います。いきなりロビーで地域を紹介してくださいと言っても現状では難しい。段階を追った提案が必要となりそうです。区民会議フォーラムで報告いただいた野川カルタは非常におもしろい事例でした。

**松井委員** カルタを用いて、うまく地域の関心・興味を引いていました。良い投げかけの形だったと思います。

**高木部会長** 昨年は、カルタの素材となった場所を歩くウォークイベントも開催しています。進んだ事例だと思います。

**松井委員** 今、平瀬川のマップづくりに取り組んでいます。全部で8コース、うち2コースは高津区ですが、向丘地区で6コース分の神社やお寺、緑、花などのマップを作成します。これを土台に地域に投げかけることで、いろいろな情報がでてくると思います。また、7月に開催する七夕サミットというイベントで、各学校や社会福祉協議会、青少年指導委員会にこのマップを贈呈しようと考えています。合わせてアンケートなどを行えば、地域の資源を共有していく動きがつけれると思います。

**永野委員長** 中学校区単位などの地域毎での取組とは別に区民祭など区全体の大きな年間のイベントの中で区民にアピールしていく手法も考えていきたいと思っています。区民へのアピールにはいくつかの手法を出していくことが必要だと思います。

資料3にもある「観光大使の創設・活用」ですが、宮前区の良いところを説明できるようになるための養成講座のようなものが必要になると思います。

**恒川委員** 宮前区ガイドマップは区全体のマップですが、もっと身近な地域単位、歩いて周れる数kmの単位でマップをつくりたいと思います。より多くの区民が参加していく手法、しかけを考えたいです。

**松井委員** 向丘地区のマップづくりでは、ゆっくり歩いて2~3時間、大体3kmくらいの範囲で地域を歩いてもらう機会を再度（一昨年月1ベースにて8回8コースを延べ300名で探索調査）9月から月1ベースで計画しています。これをうまく活用すれば、ウォークラリーのような形にもできると思います。

**河井委員** 宮崎町内会の美化委員会では、地域のオープンガーデンなどのマップをつくりたいという話が出ています。ただ「掲載されるのが嫌」という家庭もあるようです。区からの呼びかけになるとより参加や協力しやすい形になります。

カルタですが、中学校になると、百人一種がテストに出たり、授業で覚えて、大会があったりして

盛り上がっています。中学生以上なら上の句、下の句にして、覚えないと取れないようにしてもできると思います。できたものでまた大会などができるとさらに盛り上がると思います。

**永野委員長** カルタの良いところは、歩けない人も「地域にはこんなものがあるんだ」と分かるところにもあると思います。いろいろな使い方ができます。ガイドマップをつくる、ウォークラリーのコースをつくるなど、発展していける形が良いと思います。

**高木部会長** 野川カルタが、野川以外の地域で、まだあまり認知されていないと思います。もっと知らせることができれば、「うちの地域でもつくってみよう」となるかもしれません。

**事務局** (区民会議で野川カルタの発表をいただいた) 亀ヶ谷さんも、区民会議フォーラムの場で発表できたことは大変良かったと言ってくれています。

**永野委員長** 全ての札を盛り込んだポスターを作成したのも、とても良いアイデアでした。

**高木部会長** パッとみて、全体像や全ての札の情報がわかります。

**松井委員** 地区社協の広報委員会が作成したというのも興味深かったです。他の地域でも社協が進めていくようなことも可能ではないでしょうか。

**事務局** 財源の話もありましたが、区民会議からの提案ということできちんとまとまれば、協働推進事業として取り組んで行くことも想定されます。誰が音頭をとっていくかというところ、実行部隊をどこにするのかというところまで、区民会議でまとめていくことが重要です。決定までいかななくても、ある程度の想定はしたいところです。

**河井委員** 平瀬川の歌も、地域の学校で歌い継がれつつあるなど、非常に良い事例だと思います。

**松井委員** 歌を通して地域を知ろうという活動になっています。菅生小学校では全校、保護者までが歌を覚える機会を作っております。

**河井委員** 中学生に作曲もさせたり、最終的には発表会やコンクールなどへの発展もできそうです。

**高木部会長** 地域を知るためのマップづくりというのはおもしろいと思います。平瀬川の取組を他の地区にも広げていく。既存のガイドブックや資源リストなども参考にしながら、さらにその地域の住民に身近な形を狙いたい。作業を通して、共有が進みます。

**河井委員** 一度作成したマップも、時間が経つと開発などで環境が変わってしまうことがあります。情報の更新の方法を考えておくことも必要です。ホームページ上の場合は比較的更新などもしやすいのではないのでしょうか。

**高木部会長** これまでの「地域のマップづくり」で取り上げられたのは、たとえば石造物や史跡などあまり変化しにくい資源が多かったと思います。

**河井委員** 情報更新が必要な間隔は、載せる情報の種類によります。たとえばおいしい店の情報などは、もう少し変わりやすい情報です。

**高木部会長** 宮前ぽ一たろうでも、最近地域のお店などの情報の掲載も増えてきました。

**恒川委員** ガイドマップをより身近に、「今日はここを歩いてみよう」となるようなものに変えていく必要があると思います。最近が高齢化社会の中で、健康維持などの為に地域で歩いている人が非常に増えてきています。

**松井委員** マップを見ながら歩いているだけでは、地元のお店に寄って、多少地域にお金が落ちている部分はあるかもしれませんが、地域貢献という意味ではまだまだです。知識を詰め込むだけでなく、地域で活用されていくような形にもっていききたい。地元の地域から遠くへ行って、名所をめぐるだけで終わってしまうのはもったいないです。

**事務局** 私も内科検診で医者にもっと歩きなさいと言われたのですが、最近ではメタボリック検診なども

盛んに行われています。例えばその検診の場で、受診者の方の住んでいる地域のマップを「ぜひここを歩いてみてください」と渡せると面白いと思います。これまで地域に関心がなかった人に対するきっかけづくりと、健康づくりが合わせてできそうです。

**河井委員** お年寄り向き、子ども向きなどの展開もできると良いです。保健所にはお年寄りや子どもも来ます。

**永野委員長** 観光地の駅前でもらうイラストマップのような地域レベルのマップ、例えば A41 枚の捨てられても良いくらいの形のマップをたくさん配れると良いと思います。安価で気軽に配れる地図も必要だと思います。内容の更新もしやすくなります。

**高木部会長** まず中学校区単位でそうしたマップをつくる。それに交通情報なども合わせていけばいろいろな使い方ができます。

**恒川委員** 先日、まち歩きで菅生の方を歩いたのですが、宮前区の地形や開発の流れなどがよくわかりました。

**高木部会長** 地図の中に連絡先も記入し、その人が気に入った場所や新たに足してもらいたい情報などを集め、フィードバックしていけると良いと思います。

**松井委員** ニヶ領用水せせらぎ館で、さくらまつりを開催し、コンサートをやった時、地元の町会が「さくらマップ」という地図を発行しました。せせらぎ館から緑化センターまでの地図で神社なども掲載されているのですが、これがすごい人気で去年も今年もすぐに無くなってしまいました。このような身近な地図を見て歩きたいという人が増えてきています。グリーンフォーラムでこの1週間、区内のあちこちにある桜を何百枚も撮影してきましたが、これまで区内の桜がある場所はかなり知っているつもりでも、初めて知る場所もたくさんありました。

**高木部会長** 桜は、宮前区の区の木ですから、桜マップは宮前区にも合っていますね。

**永野部会長** それぞれの団体で作成したマップがいくつかあると思うのですが、それがなかなか外に出て行きません。こうしたマップを集めて、「ここに行けば、いろんなマップがある」という場所をつくっていくことも必要だと思います。

**渡辺委員** 2月に21日に開催された「まちづくり広場ラブみやまえ」（区民フォーラム）で、宮前区歴史文化調査委員会の展示発表がありました。ものすごく詳しく調査をされていて、地元の人も知らないような歴史を実によくご存じでした。委員会がまとめた「宮前歴史ガイド」も参考にして地域を見直すこともよいと思います。

**高木部会長** 観光協会の活用も手法のひとつだと思います。宮前地区と比べ、向丘地区には情報提供の場所や窓口が少なく、つくりにくい面があると思います。情報提供の場の設定も今後考えていかなければならないと思います。

**事務局** できたものを活用する方策も大切ですが、地図などをつくる過程が共有の過程でもあり、その手法やしかけがもっとも大切であり、議論すべきところではないでしょうか。

**高木部会長** 部会名称のサブタイトルにもある「ときめき再発見」を大切にしていきながら、しかけを考えていきたいです。

**渡辺委員** マップづくりに取り組むための呼び水、手段をうまく考える必要があります。

**コンサルタント** マップづくりはまちづくりの中で非常に良く使われる手法ですが、テーマを何にするかということが大事です。地域では特にテーマを与えず、「地域で良いと思うもの探してみよう」という形でやることも多いです。これは地域に目を向けるきっかけづくりとしては良いと思いますが、さくらマップの例の様に、テーマが絞れているマップは地域に目を向けると同時に楽しみ方も提案で

き、更に魅力あるものとなります。例えば、メタボの人用のウォーキングマップのほかには、最近では東京マラソンなども非常に人気で、ジョギングをする人も増えていますので、ジョギングマップも良いかもしれません。テーマを絞ったマップづくりのコンテストみたいにしても良いのではないのでしょうか。桜マップ、昆虫マップなどいくつか出てきて、人気投票で優勝を決める形も考えられます。学校や、区内の活動団体に呼びかけ、それぞれの得意分野でマップを作成すれば良いと思います。

**事務局** 実は本日の会議の前に区役所に地図屋さんが営業に来ていました。それで見せていただいたのは、小平市で作成した昔懐かしい丸型ポストのマップでした。

**コンサルタント** 例えば、宮前区では写真コンテストもこれまで何回か開催してきていますが、その入賞作品の撮影場所をデータ化して、ここに行くの良い絵が狙えますというような「お薦め撮影スポットマップ」なども考えられます。写真好きな方はそのマップとカメラを持って出かけるかもしれません。おいしい店マップやデートスポットマップなども考えられます。

**恒川委員** 誰に作業をしてもらうかが一番大切です。

**高木部会長** 昆虫マップは子どもたちが興味を持ちそうです。遊び場マップもできそうです。飛森などは相当遠くの地域からも子どもが遊びに来ています。

**永野委員長** 昔東京都世田谷区が「三世代の遊び場マップ」というのを作りました。宮前区でもぼればれが同じようなマップを作ったことがあったと思うのですが、1回発表してそのままになってしまっています。こうしたマップの情報を蓄積していく必要があります。

**河井委員** マップづくりはある程度そのテーマにマニアックな人がいないとできないように思います。一方カルタでは1箇所の情報、一人の情報からでも集めることができ、そこから始めた方が、一人一人の力や情報が生きてくるような気がします。映像コンクールの様に、専門家も入ってアドバイスを与えながら進めるような形ができるのならマップづくりもかなり良いものができて、それを競わせることもできると思いますが、ただ「さあマップをつくりましょう」といっても、なかなか出てくるものが無いように思います。

**松井委員** 麻生区では元NHKの映像の専門家が電車の沿線麻生区黒川から登戸くらいまでの駅の間の緑、史跡などを撮影した映像をつくっていました。麻生区には声優の専門学校があり、その生徒さんをナレーターに使ったりもしていました。すごいなと思いました。

**永野委員長** 現在の映像コンクールを大人の部門や写真の部門も設けて発展させていく提案もあると思います。

**高木部会長** テーマ性を持たせて、「自分のお薦めスポット」の映像を撮ってもらうとおもしろいかもしれません。

**恒川委員** カルタづくりとマップづくりは一緒に進めていくこともできます。カルタで読まれたお薦めスポットをマップに落としていけば良いのです。地域の老人会や学校にうまく働きかけて、総合学習などの時間で一緒に作業を進めていくような形ができると良いと思います。

**高木部会長** 最近の小学校では「ふれあいタイム」といって、年に数回、授業を地域の人に開放しています。その中では、3,4年生が地域の資源を地図に落とした模造紙をつくって発表していたりしています。

**永野委員長** 学校は4月にはその年度の活動予定を大体決めてしまうので、途中から、「今年これやってくれ」という話への対応が難しい現状があります。年度を跨いで働きかけていけば実現度は高まります。安全安心マップづくりも、新年度になって取り組んでいただける学校が増えてきました。

**恒川委員** やはり提案の担い手として誰を対象にするのが重要ですね。

**高木部会長** 最近の学校は、地域に出て調査をするような活動も増えてきています。

**河井委員** 4年生で地域の環境をテーマにした学習が取り組まれています。先生方が地元地域を知らない現状があり、こちらから地域をテーマにした学習活動を提案すると、結構のってきてくださいます。こちらとしては結構準備なども大変なのですが、子どもたちとの交流は楽しいです。

**高木部会長** 飛森谷戸にも学校の学習がよく来ています。昨日も向丘小学校の先生が3年生を連れてくるということで、いらしたのですが全然花の名前など覚えていなくて、ちょっとびっくりしたことがありました。例えばタマノカンアオイという草があり、ちょうど今頃、紫の花をつけるのですが、それは、葉を押し広げるようにしないとなかなか見られません。また、タチツボスミレもだんだん首があがってくるからそんな名前がついているなど、そういったポイントは図鑑の知識だけではなかなかものになりません。タンポポにも主にセイヨウタンポポとヤマトタンポポの2種類があることなども教え、「これで子どもたちに説明できる」と言っていました。こうした情報をクイズとしていれこんだような地図もできると思います。遊びの要素をいれていきたいです。

**永野委員長** 小学校の総合学習の時間と連携して進めるというようなことをきちんと文章化して提案していく必要がありそうです。

**事務局** その際にはやはり学校の先生だけで進めていくのではなく、どなたか地域からコーディネーターが入っていかないと難しいと思います。グリーンフォーラムさんではそのような活動も展開されています。できれば、大人もいろいろな人たち、地域全体を含めていくような形が良いと思います。

**恒川委員** 地域の老人会のような、いろいろな団体を組み合わせてと良いと思います。

**高木部会長** 昔ばなしも素材として面白いと思います。

**永野委員長** 資料3には「観光大使の創設」とありますが、どのような大使を、どのように養成するのか、もう少し具体的に検討していく必要があります。文化歴史、緑、遊びなど分野もいろいろ考えられます。

**松井委員** 宮前区の学芸員づくりとして、定年退職者を中心に講習会などを開いてやってもらってはどうか。

**高木部会長** あまり難しく考える必要はないと思います。私のイメージでは、例えば親子で宮前区内の同じものをそれぞれの視点から紹介するようなイメージです。1年間かけて、いろいろなものを紹介する。観光大使は、単に有名人を任命してというような形にはしたくないです。マスコットやキャラクターも市民にひろく募集し、みんなで決めていくような形で進めたい。川崎市では、施設のマスコットはいくつかありますが、区のマスコットをつくった例はまだありません。

**恒川委員** 社協はマップづくりの担い手としてお願いする対象になりうるのでしょうか。

**高木部会長** 社会福祉協議会ですので、福祉の分野と結び付けていく必要があります。カルタづくりでは高齢者や子どもたちが集って遊ぶことができるということで取り組んだのだと思います。

**河井委員** 社協はどういった単位で活動しているのでしょうか。

**事務局** 東有馬があり、有馬・鷺沼があります。この辺り、宮崎などの地域は第2地区社協です。東名高速の北側の地域は、ほとんどが向丘地区社協で大きなエリアで活動しています。第1地区社協から第3地区社協があるのですが、他は番号で名称がついていません。活動状況などは、詳しいことはわかりませんが、地域によって違いがあるようです。

**永野委員長** 野川や土橋の地域では社協の活動が盛んなようです。

**事務局** 様々なヘルパーの事業などを展開しています。地域づくり事業として、老人憩いの家を拠点とした活動を展開しているところもあります。

**渡辺委員** 福祉バザーを行っている地域もあります。

**事務局** 高齢者に限らず、子どもに関わる事業なども展開しています。区社協では指定管理を受けて老人憩いの家の運営を行っている例もあります。市があり、区があり、さらにその中で地区があるという3層構造があり、地域の地道な活動は地区社協が行っています。ただやはり地域によって温度差や活動状況の差があるようです。

**松井委員** 社協にも、地域教育会議にも、体育指導委員会にも動いてもらう。その中で音頭をとって作業を進めていくのは難しいかもしれないが、諸団体を活用して集約できれば、うまくいくと思います。こうした既存の組織はそれぞれの役割を持っていますが、どれも地域を良くするための組織です。しかし、現状では統一感なく、バラバラに活動している印象があります。健康や教育などのテーマの中で、地域で有志を募り、うまく地域の様々な団体に関わってもらえないでしょうか。

**恒川委員** 老人会は地域の学校と接するような取組も行っています。

**松井委員** 老人会は動員力がある組織です。うまく参加してもらえれば大きな力になります。

**永野委員長** 老人会の行政側の事務局はどこになるのでしょうか。

**事務局** 高齢者支援課が事務局です。

**永野委員長** 地域振興課との調整が全くなされておらず、同じ日にイベントがあつたりします。各課がもつ団体同士のすり合わせの場所がないので、こういうことになってしまう。縦割りの弊害です。

**松井委員** 青少年指導委員会や体育指導委員会など、それぞれの分野は違っても、大きな共通の目標を持っていて、全体で大きな力になっているのなら良いのですが、現状ではバラバラ。非常にもったいないと思います。お互いが歯車の様にうまく絡み合っていくと良いのですが。

**永野委員長** 各区に子ども総合支援の部署ができ、地域振興課と行事のすり合わせなど行うようになり、少しやりやすくなってきました。健康福祉関係や教育委員会ともうまく連携できるようになると良いと思います。

**高木部会長** おそらく出会いの場がない。共通する話題やテーマがなかなか無いという現状だと思います。昔は親子運動会があり、地域の様々な団体が参加していましたが、無くなってしまいました。これからは地域の宝探し健康づくりにもなるという形でやっていると、様々な団体に参加してもらえ、おもしろいことになると思います。

**松井委員** さらに、子どもたちの郷土愛を育てる、ふるさとづくりということでやれば良いのではないのでしょうか。

**事務局** 誰がコーディネートするのが大切です。グリーンフォーラム 21 の活動も、2年を経て、中学校区単位で世話役さんをつくってきて、マップの制度も上がってきています。段々事業が地域で深まり、なじんできていることを感じています。行政もちろんお手伝いをさせていただきますが、こうした活動がこれまでの人脈を活かし、更につながっていくと嬉しいなと思います。

**河井委員** 地域によっては温度差がある現状もあります。やれる地域から進めている面があります。

**事務局** 全地域で一度にとは考えていません。1地域や2地域からでも、区民会議委員さんの地域からでも、まず取り組んでみる。そこに子どもを巻き込んで、地域の老人クラブなども巻き込んでつくりあげていくということができればと思います。

**河井委員** 欲張らずにまずどこかモデルでやってみる。ノウハウができていないのに全部で一度にやろうというのは無理です。

**松井委員** マップをつくるだけでなく、贈呈式を行うというのも味噌です。地域の老人会や社協、商店会、地域教育会議、PTAなどにきちんとマップのサンプルも入れて、贈呈式への招待状を出す計画で

す。どれだけ来ていただけるかはわかりませんが、そうした組織と連携しながら、その後の活動を連携していきたい。それができないとなかなか力も大きくなっていかないと思います。

**事務局** イベントをうつだけでなく、カルタやマップなど最終的な成果物をきちんと出すこともポイントになりそうです。

**渡辺委員** 子どもに上手に関わってもらいと、その両親や更には祖父母も巻き込むことができます。高齢者に働きかけても他の世代には広がりにくい面があります。

**永野委員** 第1期では地域コーディネーターの話題が出ており、行政も要請講座を行っています。

**事務局** シニアの事業の中で展開しています。受講者がいきなり地域の場で地域の様々な団体の連携に貢献できるような形にはなかなかありませんが、、

**松井委員** 講座の中で、勉強したからできるというわけではない。具体的にイベントに参加するなど、現場を体験しながらでないとなかなか地域の人材として育っていきません。現場を経ながらスキルアップしていくことが重要です。最終的には人と人とを結び付けることであり、こうあるべきということがわかっただけでは、力になりません。

最近では、若い人も地域で活動をしたいという意向を持っている人もいますが、現実的には、子育てをしていたり、仕事をしていて、無償のボランティアではなかなかできない。今後は職能として、地域コーディネーターが育つようにしたい。そのための制度の整備も必要だと思います。少し飛躍するかもしれませんが、それができれば市議員は半分にでき、その分のお金でまちの様々な事業も展開できると思います。

**事務局** 地域の様々な団体に顔が利く方というのはどこの地域にもいらっしゃいます。そういう方がキーパーソンなのかなと感じています。

**松井委員** それをきちんと制度化することはできると思います。

**河井委員** 学校に総合学習のボランティアで行っても、予算がなく、全て無償です。最初のころはお茶菓子くらいはと出てきたのですが、最近は何もできなくなっており、学校側も「もうしわけありません」「心苦しいのですが」と言っています。

**松井委員** 昔は図書券などをもらうこともあったのですが、最近は何もありません。別に報酬がほしいわけではないですが。

**河井委員** でも多少は報酬がないとできない人もいます。実際に準備などには時間や費用もかかっています。お金を全くもらっていないと言うと、びっくりされることもあります。

**永野委員長** 今、市ではまちづくりコーディネーター派遣制度があります。ただそれは専門家だけで、地域と絡んだ人材の派遣にはなかなかありません。地域の人材、地域に根付いた方を地域のコーディネーターにする制度が必要だと思います。

**事務局** 制度をつくれればできるということではなく、地道に活動を続けていく中で認知されていくものではないかと認識しています。

**松井委員** 平瀬川流域ではマップづくりを通して、下地はできていると思います。

**事務局** 野川地域でもカルタの発案から完成まで約2年かかったということで、そのぐらいのスパンで見えていくことが必要なのかもしれません。今日はこれまでだいぶいろいろな意見が出たと思います。事務局でまとめのお手伝いをさせていただき、部会長と打ち合わせをすれば、第1回の区民会議で報告できるだけの素材は出たと思います。

**渡辺委員** カルタづくりは良いと思います。多くの方が制作に参加し、更にできたもので、遊べるのが良いです。

**河井委員** 野川カルタではイラストレーターが入っていましたが、子どもたちに絵を描かせるのも面白いと思います。

**松井委員** 川崎区では、すごろくという取組もありました。

**河井委員** 自分の作品が読まれたり、見られる喜びもあると思います。

**コンサルタント** 川崎区のすごろくは地域の史跡や名所がマスになっていて、その紹介文も入っているのですが、さらにそれをもう一步進めて、その場所の特徴を活かしたイベントが発生するような、人生ゲーム的なものをつくることも面白いかもしれません。

**高木部会長** 宮前区は起伏が激しいので、この散歩コースはレベルいくつで、カロリーこのぐらい消費できますというようなマップも面白いと思います。

**松井委員** そういう切り口や遊び心を加えていくとどんどん楽しくなりますね。

**高木部会長** 健康づくりとうまく絡めれば、社協の協力も得られるかもしれません。また、こども科学館で、親子の絆をつくる活動ということで、厚生省からの補助金を得ている活動例もあります。

**恒川委員** まちあるきで菅生地区を歩いた時、高いところは標高 101m、低いところは 20m という説明を受けました。

**高木部会長** 山坂が多いことを楽しむこともできると思います。

**松井委員** 斜面があることで緑地が残っていたり、眺めがよいスポットもたくさんあります。

**高木部会長** 以前つくった坂の名前も生きてきます。

**河井委員** 私は観光地に行くときに、地図を事前にネットで調べて、ほしい所だけ印刷して持っていくことがあります。

**恒川委員** 高津区の大山街道で、道の駅だかイベントをやっていると聞きましたが、、、

**コンサルタント** 高津区は大山街道フェスタというイベントをやっています。街道沿いにある大山街道ふるさと館や図書館前の緑地などを会場に、フリーマーケットや落語会や演奏会などのイベントをしています。確か 2 月だったと思います。

**永野委員長** 車のための道の駅ではなく、新しい発想で歩行者のための道の駅のようなものができるとおもしろいかもしれません。散歩コースの中にあって、地場産のものが売っていたりすると魅力があると思います。

**松井委員** グリーンフォーラムではセレスモスのようなものが、北部市場でできないかという意見も出ています。なかなか難しい面があるようですが、区全体で本気で考えれば道の駅のミニ版のようなもののできるのではないのでしょうか。やはり諸団体をいかに結びつけるかが重要です。新たな団体をつくるのは大変です。

**高木部会長** カルタは地域の資源の再発見につながると思います。ときめき再発見カルタなんて名前も良いかもしれません。

**事務局** 本日出た議論はキーワードなどでまとめて、今度の区民会議の発表用に部会長さんと相談させていただきたいと思います。

**※一同了承**

### (3) その他

#### ■区民会議交流会について

- ・5月20日(水)に開催が予定されている区民会議交流会について、資料に沿って、事務局が説明した。
- ・宮前区区民会議からの参加者は委員長と、各部会から1名ということになり、宮前区の宝探し〜とき

めき再発見～部会からは河井委員が参加するとういことで決定した。

#### ■次回部会日程について

・6月15日（月）18:00～開催することで決定した。

#### ■「歳時記宮前」について

・資料に沿って、事務局が説明し、情報の提供、意見を求めた。

**永野委員長** 毎月発行されるということですが、毎号の情報の締め切り期限を表示していただけると良いと思います。

**松井委員** これだけでも結構よいものです。知りたかった情報がいくつか入っていますし、まちの動きが見えてくると思います。

**事務局** 季節を感じられる情報として、今月はここでこの花が見ごろというような情報も掲載できたら良いと考えています。

**永野委員長** 5月14～16日には、有馬野川地区の生涯学習施設のオープニングイベントが開催されます。

**高木部会長** 向丘地区の盆踊りのスケジュールは出張所で把握されているはずですが、お神輿などの情報も載せられるとよいです。

**松井委員** 掲載するのは、原則として誰でも来てよいイベントということになると思います。

**事務局** スペースが足りない場合は、市政だよりなど他のメディアでは紹介されにくい情報を優先的にとりあげていきたいと思っています。最初から充実はしないかもしれませんが、継続することによって定着し、情報が集まるようになってくれば良いと考えています。

**河井委員** 年末で言えば除夜の鐘を自分でたたけるところなど区内であれば知りたいです。

#### ■第2回の区民会議（全体会）について

・8月、お盆前の日程で検討していることを確認。4日を第一候補とした。

・有馬野川出張所での開催を検討していくことを確認した。

#### ■参与との意見交換会

・4月20日（月）に開催することを確認した。